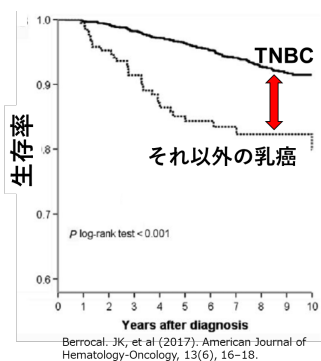


乳がん治療用医薬組成物

新技術の概要

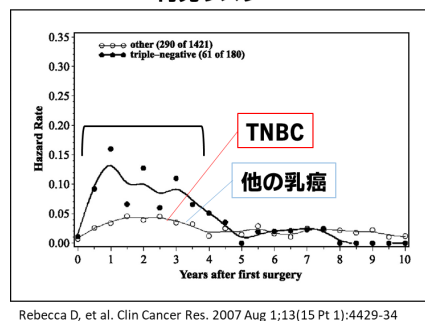
組織常在性間質細胞に対する抑制物質を有効成分として含む、乳がん(特にトリプルネガティブ乳がん：TNBC)治療用医薬組成物

組織常在性間質細胞が、乳がんの組織に特異的に侵入し、乳がんの増殖を促進することを見出した。従って、当該間質細胞を抑制することによって、乳がん(特に、有効な治療法のないTNBC)を治療することが可能であり、特に手術後の再発を抑制することが期待できる。



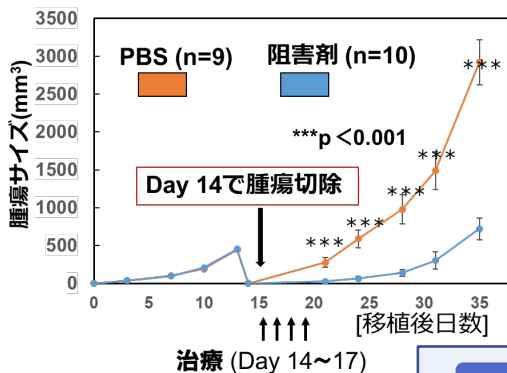
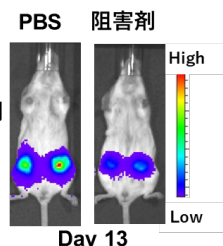
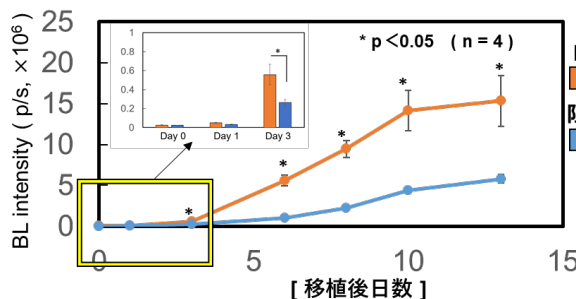
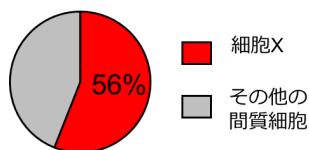
(左図)TNBCは、乳がんの中でも最も予後が悪い。
(右図)治療後の再発率も高い。しかし、特異的治療マーカーが無いために、有効な治療法が無く、新たな治療法の開発が望まれている。

再発リスク



(下図)TNBC腫瘍内に乳腺組織から侵入する間質細胞の種類を調査したところ「細胞X」が高い割合で侵入している事を見出した。

腫瘍内に侵入する組織常在性間質細胞における%



(上図)細胞Xの阻害剤をDay-1に単回投与すると、長期にわたり乳がんの増殖を抑制した。
(左図)移植後14日目に乳がんを切除し、手術日から4日連続で細胞Xの阻害剤を投与したところ、再発を有意に抑制した。

本技術のアピールポイント

- 乳がん、特にトリプルネガティブ乳がんを効果的に治療



Tokyo Tech

お問い合わせ先:

東京工業大学 研究・産学連携本部

E-mail: thioki@sangaku.titech.ac.jp

TEL: 045-924-5171 URA 日置 孝徳

用途分野

- 乳がん治療薬

特許情報

発明の名称 乳がん治療用医薬組成物

発明者 近藤 科江 他

出願人 国立大学法人東京工業大学

出願 特願2021-123026 (出願日:2021/07/28)

公開 未公開

本学整理番号 21T032